

新登録生育調節剤一覧

農林省農政局植物防疫課

昭和47年1月1日～3月31日

農薬名	有効成分の種類および含有量	剤型	適用作物名	使用目的	使用時期	希釈倍数	使用方法	登録会社
エスレル	2-クロルエチルホスホン酸 39.0%	液剤	アトリカラー [ネオレゲリア カロリー ナトリカラ ー]	着花促進 (開花促進)	4～11月 開花希望日の約 3カ月前	葉面散布 500～600倍 葉筒内注入 600～1000倍	本剤の所定希釈液を葉全面に散布または葉筒内に株当たり20cc注入する。 使用株は葉数20枚以上であること。	日産化学工業, 石原産業
			インコアナナス [イブリー ジア カリナー タ]	同上	1～6月 開花希望日の約3 カ月前	葉面散布 600～1000倍 葉筒内注入 4000倍		

昭和46年度既登録農薬残留量調査試験実施状況

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和46年度、当協会において受託した既登録農薬残留量分析試験調整(64薬剤148組)

および農薬残留量分析結果報告書の審査状況(20薬剤43組)については、下記の通りである。

(昭和47年3月31日現在)

(注) 印は対象作物が審査済である。

2,4PA(水稲移植), MCP(水稲移植), PCP(水稲移植・水稲移植体系・陸稲・ばれいしょ・菜豆・こんにゃく), PCP・MCP(水稲移植), MCC・MCP(水稲移植), 2,4PA・ATA(水稲移植), CNP・MCP(水稲移植), MCC(陸稲), MCPB(水稲移植), CNP(水稲移植, 水稲体系), NIP(水稲マルチ・水稲移植・かんらん・い

ちご・きゅうり・らっかせい・かんしょ), NIP・MCP(水稲移植), シメトリン(水稲移植), DCPA(水稲移植・かんしょ・レタス), DCPAホドガヤ(水稲移植), DCPA・CHCH(水稲移植), DCPA・NAC(みかん), TOPE(水稲移植), DMNP(小麦), DMNP・MCP(水稲移植), DNBP(水稲畑苗代, 大豆), EPTC(菜豆・ばれいしょ), DCNP(菜豆・小麦), CMPT(小麦), DNBPA(菜豆), CMPT(小麦), DPA(なたね・てんさい・みかん・りんご), IPC(菜豆・いちご・はくさい・いんげん・ごぼう), CAT(陸稲・ち

や・かんしょ・かんらん・麦・いちご・さやえんどう・ぶどう・りんご・みかん), アトラジン(とうもろこし・さとうきび・りんご), プロパジン(にんじん), アメトリン(みかん), プロメトリン(水稲移植・陸稲・大豆・だいこん), DCMU(みかん・さとうきび・りんご), リニユロン(大豆・ばれいしょ・陸稲・ハッカ・アスバラカス・ぶどう・桑), ナシル(てんさい・ほうれんそう・いちご), ターバシル(みかん・りんご), プロマシル(みかん), PAC・BIPC(てんさい・にら・たまねぎ), DBN(りんご・ぶどう・みかん・飼料作物), パラコート(水稲・小麦・ばれいしょ・いちご・なす・かんらん・なし・ぶどう・みかん・茶・桑・飼料作物), ACN(水稲移植), トリフルラリン・MCPAN(水稲移植), アラクロール(だいこん・かんらん),

フェンメディファム(てんさい), ペンチオカーブ(水稲移植・陸稲), ATA(麦・ぶどう・りんご・みかん), シアン酸塩(なす・ぶどう・みかん), 塩素酸塩(水稲移植), 石灰窒素(小麦)

II 生育調節剤

ルートン(かんしょ・茶), アミドシン(ぶどう), 2,4,5-TP(りんご), トマトトーン(とまと), α -NAA(みかん・りんご), ジベレリン(いちご・きゅうり・セルリー・ぶどう・ネーブル), B-ナイン(ぶどう・おうとう・りんご), OEDグリーン(レタス・水稲移植), ホバイン(パインアップル), MH-30(たまねぎ), テッカバール(りんご), アトニック(ばれいしょ・ほうれんそう・きゅうり・いちご・小麦)

編 集 後 記

清明……萬物発生し、清く明かになる……季節となり、盛期を迎えた冬雑草のかげから、春雑草が顔を出しはじめた。

さて、これから雑草との闘いがはじまるが、何れの雑草でも、初期に防除するのが効果的である。雑草発生初期処理剤としては、各種の薬剤が実用化され、登録、市販されているが、各薬剤によって除草効果を異にするので、薬剤の特性をよく知った上で使用することが望ましい。ことに、薬剤によっては、同一薬剤を連用することにより、土壌残留期間を長期化し、作物の生育に悪影響を与える場合もあるので、できるならば系統の異なった薬剤を使うようにした方がよいのではないかと思う。農林省や環境庁では、各種薬剤の土壌残留調査を実施中であるがそれらの結果が判明次第、公表されることにな

ると思う。しかし、それまでの間は、先に述べたような方法で使用するのが賢明である。

当誌も発行以来、5星霜を経て、ようやく6年生になった。装いは新たにしたが、内容は堅く試験結果報告書の域を脱することはできないことと思う。諸者諸氏のご叱責を乞う。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
東話 東京(03)502-4188(代)

昭和47年4月発行

第6巻第1号

¥90(送料50)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番